

ご	参	考					
	2011	年	度	活	動	一	覧

■ 分科会

- ・ システム技術分科会
- ・ 教育環境分科会
- ・ 科学技術計算分科会
- ・ 合同分科会

■ WG

■ 委員会

■ タスクフォース

■分科会活動

システム技術分科会

2011 年度 第 1 回会合	<h4>スマホで変わるサービスとシステム</h4> <p>▶ 2011 年 9 月 9 日(金) 13:30~17:30 / 富士通(株)本社</p> <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="384 443 1385 524">■ 大学における全学生教職員への小型無線端末の配布 小柏 伸夫 (共愛学園前橋国際大学) 掲載 <li data-bbox="384 524 1385 613">■ 『シンクライアント+スマートフォン』によるモバイル統合 河野 英士 (広島ガス株式会社) <li data-bbox="384 613 1385 703">■ スマートフォンセキュリティ再考 西田 助宏 (NRI セキュアテクノロジーズ株式会社) <li data-bbox="384 703 1385 792">■ ヒューマンセントリックコンピューティングへの取り組み 飯田 一朗 (株式会社富士通研究所)
2011 年度 第 2 回会合	<h4>創るクラウド~プライベートクラウド活用特集</h4> <p>▶ 2012 年 1 月 27 日(金) 13:30~17:30 / 富士通(株)本社</p> <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="384 1003 1385 1084">■ データセンタを利用したクラウド型演習室の構築 中村 直人 (千葉工業大学) 掲載 <li data-bbox="384 1084 1385 1173">■ クラウド利用を中心とした IT 現場のイノベーション 小林 賢也 (東京海上日動システムズ株式会社) <li data-bbox="384 1173 1385 1263">■ スモールスタートからのアカデミッククラウド導入事例 日下部 茂 (九州大学) <li data-bbox="384 1263 1385 1352">■ 北海道大学における大規模学術クラウドの構築と運用について 棟朝 雅晴 (北海道大学)
合同分科会 代表報告	<p>▶ 2011 年 10 月 21 日(金) / ANA クラウンプラザホテル神戸</p> <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="384 1536 1385 1617">■ 災害時に有効な情報通信技術と問題点 柴田 義孝 (岩手県立大学)

掲載は本冊子に原稿が掲載されています

教育環境分科会

2011 年度 第 1 回会合	<div style="background-color: #cccccc; padding: 5px;"> 国際化を支える教育環境 －国際化・多様化の進む大学のコンプライアンスの現状とその課題－ </div> <p>▶ 2011 年 9 月 8 日(木) 13:15～17:50 / 富士通(株)本社</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="padding: 5px;"> ■ 大阪大学における留学生支援の現状 －留学生に魅力的な大学とは？－ 近藤 佐知彦 (大阪大学) </td> <td style="text-align: right; vertical-align: middle; padding: 5px;">掲載</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"> ■ 倫倫姫プロジェクト：多言語情報倫理 e ラーニングコンテンツの開発と運用 上田 浩 (京都大学) </td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"> ■ インシデント発生を抑えるための取り組み 杉谷 賢一 (熊本大学) </td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 5px;"> 討論 ■ 国際化・多様化の進む大学におけるコンプライアンスの現状とその課題 コーディネータ：宇佐川 毅 (熊本大学) パネリスト：近藤 佐知彦 (大阪大学)、上田 浩 (京都大学)、 杉谷 賢一 (熊本大学) </td> </tr> </tbody> </table>	■ 大阪大学における留学生支援の現状 －留学生に魅力的な大学とは？－ 近藤 佐知彦 (大阪大学)	掲載	■ 倫倫姫プロジェクト：多言語情報倫理 e ラーニングコンテンツの開発と運用 上田 浩 (京都大学)		■ インシデント発生を抑えるための取り組み 杉谷 賢一 (熊本大学)		討論 ■ 国際化・多様化の進む大学におけるコンプライアンスの現状とその課題 コーディネータ：宇佐川 毅 (熊本大学) パネリスト：近藤 佐知彦 (大阪大学)、上田 浩 (京都大学)、 杉谷 賢一 (熊本大学)	
■ 大阪大学における留学生支援の現状 －留学生に魅力的な大学とは？－ 近藤 佐知彦 (大阪大学)	掲載								
■ 倫倫姫プロジェクト：多言語情報倫理 e ラーニングコンテンツの開発と運用 上田 浩 (京都大学)									
■ インシデント発生を抑えるための取り組み 杉谷 賢一 (熊本大学)									
討論 ■ 国際化・多様化の進む大学におけるコンプライアンスの現状とその課題 コーディネータ：宇佐川 毅 (熊本大学) パネリスト：近藤 佐知彦 (大阪大学)、上田 浩 (京都大学)、 杉谷 賢一 (熊本大学)									
2011 年度 第 2 回会合	<div style="background-color: #cccccc; padding: 5px;"> ワクワクするキャンパス </div> <p>▶ 2011 年 10 月 19 日(水) 分科会 13:30～17:20 懇談会 18:30～20:30 / ANA クラウンプラザホテル神戸</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="padding: 5px;"> ■ 社会人基礎力の育成と自己評価能力向上への取り組み －武蔵大学における三学部横断型ゼミナール・プロジェクト－ 笠原 一絵 (武蔵大学) </td> <td style="text-align: right; vertical-align: middle; padding: 5px;">掲載</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"> ■ 熊本大学工学部 日韓合同デザインキャンプ 2010 －"ものづくり"で学生をやる気にさせるプロジェクト－ 大淵 慶史 (熊本大学) </td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 5px;"> 懇談会 ■ 大学教育とその就職 話題提供：産業界が求める就業力の考察 －大学の Diploma Policy と企業の求める employability－ 宇野 和彦 (就業力育成支援コンソーシアム) </td> </tr> </tbody> </table>	■ 社会人基礎力の育成と自己評価能力向上への取り組み －武蔵大学における三学部横断型ゼミナール・プロジェクト－ 笠原 一絵 (武蔵大学)	掲載	■ 熊本大学工学部 日韓合同デザインキャンプ 2010 －"ものづくり"で学生をやる気にさせるプロジェクト－ 大淵 慶史 (熊本大学)		懇談会 ■ 大学教育とその就職 話題提供：産業界が求める就業力の考察 －大学の Diploma Policy と企業の求める employability－ 宇野 和彦 (就業力育成支援コンソーシアム)			
■ 社会人基礎力の育成と自己評価能力向上への取り組み －武蔵大学における三学部横断型ゼミナール・プロジェクト－ 笠原 一絵 (武蔵大学)	掲載								
■ 熊本大学工学部 日韓合同デザインキャンプ 2010 －"ものづくり"で学生をやる気にさせるプロジェクト－ 大淵 慶史 (熊本大学)									
懇談会 ■ 大学教育とその就職 話題提供：産業界が求める就業力の考察 －大学の Diploma Policy と企業の求める employability－ 宇野 和彦 (就業力育成支援コンソーシアム)									
合同分科会 代表報告	<p>▶ 2011 年 10 月 20 日(木) / ANA クラウンプラザホテル神戸</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="padding: 5px;"> ■ 東日本大震災における筑波大学での情報基盤の対応を振り返って 佐藤 聡 (筑波大学) </td> </tr> </tbody> </table>	■ 東日本大震災における筑波大学での情報基盤の対応を振り返って 佐藤 聡 (筑波大学)							
■ 東日本大震災における筑波大学での情報基盤の対応を振り返って 佐藤 聡 (筑波大学)									

掲載は本冊子に原稿が掲載されています

科学技術計算分科会

	<p>HPC フォーラム 2011 ペタスケール HPC 技術が支える地球科学</p> <p>▶ 2011 年 8 月 25 日(木) 10:30~17:25 / 富士通(株)本社</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>■ 東日本大震災での津波の被害像と今後の減災への課題 今村 文彦 (東北大学)</td> <td style="text-align: right;">掲載</td> </tr> <tr> <td>■ 地磁気シミュレーションとバーチャルリアリティ可視化 陰山 聡 (神戸大学)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>■ エクサスケール時代の気候モデル 富田 浩文 (理化学研究所)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>■ 構造物と都市の地震シミュレーション 堀 宗朗 (東京大学)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>■ 次世代スパコン『京』について 追永 勇次 (富士通株式会社)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	■ 東日本大震災での津波の被害像と今後の減災への課題 今村 文彦 (東北大学)	掲載	■ 地磁気シミュレーションとバーチャルリアリティ可視化 陰山 聡 (神戸大学)		■ エクサスケール時代の気候モデル 富田 浩文 (理化学研究所)		■ 構造物と都市の地震シミュレーション 堀 宗朗 (東京大学)		■ 次世代スパコン『京』について 追永 勇次 (富士通株式会社)	
■ 東日本大震災での津波の被害像と今後の減災への課題 今村 文彦 (東北大学)	掲載										
■ 地磁気シミュレーションとバーチャルリアリティ可視化 陰山 聡 (神戸大学)											
■ エクサスケール時代の気候モデル 富田 浩文 (理化学研究所)											
■ 構造物と都市の地震シミュレーション 堀 宗朗 (東京大学)											
■ 次世代スパコン『京』について 追永 勇次 (富士通株式会社)											
2011 年度 会合	<p>ペタスケール時代の Data Intensive Science とストレージ</p> <p>▶ 2011 年 10 月 19 日(水) 分科会 13:30~17:45 懇談会 18:30~20:30 / ANA クラウンプラザホテル神戸</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>■ エクサバイト規模のストレージシステムへ向けて 佐々木 節 (高エネルギー加速器研究機構)</td> <td style="text-align: right;">掲載</td> </tr> <tr> <td>■ Data Intensive Astronomy に向けた取り組み 大石 雅寿 (国立天文台)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>SS 研大規模ストレージ WG 成果報告 ■ 大規模ストレージシステムの課題と今後の展望 藤田 直行 (宇宙航空研究開発機構)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>■ 世界トップクラスシステムに相応しい超大規模ストレージを目指す「京」のストレージシステム 住元 真司 (富士通株式会社)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>懇談会 ■ GPU コンピューティングはそのまま続くのか モデレータ : 朴 泰祐 (筑波大学) パネリスト : 井上 弘士 (九州大学)、丸山 直也 (東京工業大学)、 大島 聡史 (東京大学)、成瀬 彰 (株式会社富士通研究所)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	■ エクサバイト規模のストレージシステムへ向けて 佐々木 節 (高エネルギー加速器研究機構)	掲載	■ Data Intensive Astronomy に向けた取り組み 大石 雅寿 (国立天文台)		SS 研大規模ストレージ WG 成果報告 ■ 大規模ストレージシステムの課題と今後の展望 藤田 直行 (宇宙航空研究開発機構)		■ 世界トップクラスシステムに相応しい超大規模ストレージを目指す「京」のストレージシステム 住元 真司 (富士通株式会社)		懇談会 ■ GPU コンピューティングはそのまま続くのか モデレータ : 朴 泰祐 (筑波大学) パネリスト : 井上 弘士 (九州大学)、丸山 直也 (東京工業大学)、 大島 聡史 (東京大学)、成瀬 彰 (株式会社富士通研究所)	
■ エクサバイト規模のストレージシステムへ向けて 佐々木 節 (高エネルギー加速器研究機構)	掲載										
■ Data Intensive Astronomy に向けた取り組み 大石 雅寿 (国立天文台)											
SS 研大規模ストレージ WG 成果報告 ■ 大規模ストレージシステムの課題と今後の展望 藤田 直行 (宇宙航空研究開発機構)											
■ 世界トップクラスシステムに相応しい超大規模ストレージを目指す「京」のストレージシステム 住元 真司 (富士通株式会社)											
懇談会 ■ GPU コンピューティングはそのまま続くのか モデレータ : 朴 泰祐 (筑波大学) パネリスト : 井上 弘士 (九州大学)、丸山 直也 (東京工業大学)、 大島 聡史 (東京大学)、成瀬 彰 (株式会社富士通研究所)											
合同分科会 代表報告	<p>▶ 2011 年 10 月 20 日(木) / ANA クラウンプラザホテル神戸</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>■ 東日本大震災における情報の把握/伝達/分析の実際と課題 林 衛 (富山大学)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	■ 東日本大震災における情報の把握/伝達/分析の実際と課題 林 衛 (富山大学)									
■ 東日本大震災における情報の把握/伝達/分析の実際と課題 林 衛 (富山大学)											

合同分科会

2011 年度 会合	強い社会を創る ICT
	▶ 2011 年 10 月 20 日(木) ~ 21 日(金) / ANA クラウンプラザホテル神戸
	基調講演 ■ セルフデベロップメントとプログラミング 掲載 和田 英一 (IJJ 技術研究所)
	教育環境分科会代表報告 □ 東日本大震災における筑波大学での情報基盤の対応を振り返って 佐藤 聡 (筑波大学)
	科学技術計算分科会代表報告 □ 東日本大震災における情報の把握/伝達/分析の実際と課題 林 衛 (富山大学)
	基調講演 ■ ICT は新しい社会基盤とどのように協働するか 掲載 山口 英 (奈良先端科学技術大学院大学)
	特別講演 ■ 地震と人間被害 清野 純史 (京都大学)
	特別報告 ■ スーパーコンピュータ『京』について -システムからアプリケーションまで- 久門 耕一 (株式会社富士通研究所)
特別講演 ■ 世界最速スパコン「京」を支える最先端建築テクノロジー 五十君 興、朝川 剛 (株式会社日建設計)	
システム技術分科会代表報告 □ 災害時に有効な情報通信技術と問題点 柴田 義孝 (岩手県立大学)	
	□ : 他分科会の企画

掲載は本冊子に原稿が掲載されています

■WG 活動

	アクセラレータ技術 WG [2009 年 10 月～2012 年 3 月]	終了
	<p>アクセラレータは、現在よりも桁違いに良い電力あたりの演算性能を実現する一つの手法として、エクサスケール世代での必須技術と期待されているが、エクサスケール世代におけるアクセラレータのあるべき姿はまだ明確にはなっていない。本アクセラレータ技術 WG では、アクセラレータの長所・短所、そして課題を浮き彫りにするため、近年普及しつつあるアクセラレータの一形態とも言える GPU を題材に、具体的な事例を用いて調査・議論を重ねてきた。</p> <p>成果報告書では、GPU に代表されるアクセラレータ上でのプログラム開発の現状とその課題、また、どうすればアクセラレータで高い性能が得られるのかを具体的な事例を用いて調査した結果を報告する。</p> <p>現時点では、アクセラレータ環境において、プログラミングの容易性と高性能を両立する解は残念ながら存在せず、アクセラレータを使いこなす障壁は高い。しかし、エクサスケール世代に向けてこの障壁を下げるのがますます重要になり、今後も継続的にアクセラレータの技術動向・方向性に関する議論を行う必要があると考える。</p>	
	情報化された組織のセキュリティマネジメント WG [2009 年 10 月～2012 年 3 月]	終了
	<p>大学等の ICT 部門の日々のセキュリティ対応に役立つアウトプットの作成を目指し、「BCP」「情報漏えい」「DNS」の 3 つのテーマについて検討を推進した。当初の予定では活動期間は 2 年間だったが、新鮮な情報を発信するために活動途中で「中間まとめ」を作成したことや、2011 年 3 月 11 日の東日本大震災をうけて特に BCP についての議論を深めるために、活動期間を半年延長し 2 年 6 ヶ月間の活動期間となった。</p> <p>BCP については、BCP 基盤の構築方法をまとめたものに、具体的な BCP 計画書のサンプル、大学での省電力への取り組み事例を、成果報告書としている。また、東日本大震災への実際の対応状況を分析して今後活かすため、多くの大学・研究所にご協力いただきアンケートを行った。これについても成果報告書に掲載している。</p> <p>情報漏えいについては、セキュリティポリシーと対策システムの紹介、および大学でのセキュア USB メモリ導入事例を成果報告書にまとめた。</p> <p>DNS については、DNS サーバのしくみや安全性/危険性、BIND やそれ以外による運用方法、ログ取りの方法などについて、詳細な設定方法を含めて「セキュリティ向上を主眼とする DNS 設定ガイド」としてまとめた。</p>	
	知的能力の可視化 WG [2010 年 4 月～2012 年 3 月]	終了
	<p>2 年間で 13 回の会合を持ち、研究を進めた。本 WG で扱っている知的能力は、ジェネリックスキル、あるいは学士力(文部科学省)、社会人基礎力(経済産業省)、就職基礎力、そして就業力(文部科学省)と言葉を変えてはいるが現在、大学教育の重要なテーマとなっている。</p> <p>本 WG で提案された可視化手法のひとつである学力ダイアグラムは、授業の中で教授される知識(アカデミックスキル、ベーシックスキル)と獲得できるジェネリックスキルを 15 週の授業の中でどう展開すべきか、その授業シナリオを設計する際のツールとして、あるいは学生の学びの記録としての使い方が期待される。また、もうひとつの提案であるインテリグラムは、単位互換制度の中で、大学間の科目の整合性は取れているのか、科目の同一性を見る手段になることが期待されている。これらの提案はまた、大学と企業が教育について議論する共通の手段となるものとも考えている。</p> <p>2012 年 5 月に発行する成果報告書には、知的能力の定義から、学力ダイアグラムの提案内容、インテリグラムの提案内容、これらを使った適用例と、今後の展望について述べる。また、本 WG で検討してきた内容の詳細も掲載しており、ジェネリックスキルとその評価を検討している方にとり、有益な資料になるものと考えている。</p> <p>本 WG 活動の成果報告書や提案手法を通して、大学教育の授業設計、ジェネリックスキル評価、あるいは単位互換における科目の同一性確認に役立つことを願うとともに、今後は評価実証とポートフォリオへの実装方法、使用方法についての課題を議論、解決していく場を持ちたいと考えている。</p>	

エクサスケール技術検討 WG [2010 年 11 月～2012 年 3 月]		終了
	<p>活動方針に沿って 1 年 5 ヶ月間研究を進めた。本 WG を発足させた当時、欧米ではエクサに向けての具体的な検討に着手していたが、我が国では「京」の導入に精一杯でエクサの検討にまで手がまわらない状況であった。</p> <p>そうした中、SS 研として本 WG を発足、エクサスケールでのソフトウェアにおける課題を検討する国際プロジェクト IESP の報告を参考にしながら、計算機利用者、計算機科学者、設計製造側の各々の視点からエクサを実現させるための技術的課題について議論してきた。</p> <p>「京」の開発も終盤に差し掛かった現在、文部科学省はエクサに向けた検討に着手しており、発足当時に比べ本 WG を取り巻く環境に大きな変化が起きている。従って、これまでの議論を一旦整理し、エクサの検討に向けた動きに対して SS 研として何をしていくのか、他の WG の進捗状況も考慮しながら改めて議論する必要がある。その上で、今後も継続的にエクサに向けての課題を議論していく場を持ちたいと考えている。</p>	
ペタスケール数値計算ライブラリ WG [2010 年 11 月～2013 年 7 月(予定)]		
	<p>ペタスケールあるいはエクサスケールの計算性能の実現には、京コンピュータに代表されるように、ノード内多コア、大規模ノード数の並列計算機が必要となる。そのような計算機上で効率良く動作するアプリケーションを開発することは、アプリケーション開発者への負担が非常に大きい。そのため、プロセス並列(ノード間)とスレッド並列(ノード内)を組み合わせた、ハイブリッド並列の数値計算ライブラリに注目が集まっている。</p> <p>一方で、ハイブリッド並列の数値計算ライブラリは、非常に限られたものしか開発されていないのが現状であり、その理由の一つは、プロセス間のデータ配置等、計算機のシステム構成やアプリケーションの要件に整合させなければならないためである。</p> <p>本 WG では、ペタスケール時代に必要なハイブリッド並列数値計算ライブラリの実現を目的として、代表的なアプリケーション毎のライブラリに対する要件を明らかにするとともに、重要性の高い機能あるいはライブラリを選択し、評価を行う。ターゲット計算機は、当面、代表的ペタスケール計算機としての京コンピュータと、デファクトスタンダードとしての x86 クラスタとする。なお、「エクサスケール技術検討 WG」での検討内容を参考にしながら、次々世代のアーキテクチャにも柔軟に適合できる数値計算ライブラリのあるべき姿を指向する。ターゲットプログラミングモデルは、ハイブリッド並列(MPI+OpenMP/自動スレッド並列)とする。</p> <p>また、本 WG は、ペタスケール時代の数学ライブラリを開発することを目的としたグローバルな活動である Open Petascale Libraries Network (OPLN) と連携し、OPLN の主催するワークショップ等への参加や、OPLN の開発したライブラリの評価・フィードバックを推進する。</p>	
マルチコアクラスタ性能 WG [2010 年 12 月～2012 年 11 月(予定)]		
	<p>次世代スーパーコンピュータ「京」が 2012 年に本格稼働を開始する。京はノード内マルチコアおよび大規模ノード数を特徴とした並列計算機である。そこで、本 WG では次世代スーパーコンピュータ利用促進に向けた、アプリケーションプログラムの性能分析と高速化手法の検討を行う。</p>	

終了 WG は成果報告書が作成されています

■委員会活動

SS 研活動を支援するために必要な事項を検討する活動体

広報委員会	
	SS 研活動全体の活性化を目的にした戦略的広報の計画立案を行い、具体的な広報の方策、ニュースレター（ニュースレター選集、ニュースレターCD-ROMを含む）をはじめとする活動成果の内容充実や見せ方、Web サイトの改善などを総合的に検討する。（2011 年度にニュースレター編集委員会と統合）

■タスクフォース活動

SS 研の今後の方向性、他組織との連携、新たな活動機能など従来の枠組みを越えたテーマについて検討し、施策・計画の策定、および必要な施策を講ずる活動体

タスクフォース「日本の科学技術への貢献」		終了
	「日本の科学技術への貢献」をテーマに 2 年間活動を行い、以下の 3 つについて議論し、外部に対して働きかけを行ってきた。①継続的な HPC のインフラ整備・運用のために日本版 HPC 法の立法化を提言する活動、②将来の研究・教育を担う若者はじめ市民に対する HPC の必要性のアピール活動、③民間に HPC をより活用してもらうための活動である。 本活動の纏めは、総会にて報告するが、今後も研究や教育活動に対する社会への説明責任が益々求められる中で、SS 研としても積極的に外部への情報発信を行っていく。	
タスクフォース「教育研究環境のグランドデザインへの提言」		
	情報センターが担う教育研究環境の将来ビジョンの検討およびグランドデザインの提言に向け、情報収集および整理、課題検討、それぞれの機関への対応方策の検討および会員へのフィードバックを行う。	

編集後記

広報委員会
委員長 上島 豊

このたび、2011年度のSS研分科会活動の総集編とも言える「SS研ニューズレター選集」第12巻を発行いたします。第9巻からは会員以外の方にも広くご覧いただけることとし、さらに、ISSNを取得し毎号国立国会図書館に納めております。会員の皆様はもちろんのこと、会員以外の方にもご覧いただき、SS研の活動に興味を持っていただけますと幸いです。

この「SS研ニューズレター選集」は、その時期のホットな話題を中心に纏めたSS研の主要な成果であり、足跡でもあります。2011年度は、東日本大震災、京コンピュータ、教育へのクラウド、SNS利用など、近年になくITの大きな話題、および社会への影響がありました。今回の選集では、2011年度の社会情勢とITの関わりを中心にタイムリーかつ多くの皆様にご興味を持っていただける話題をお届けするという方針で編集いたしました。

◆掲載原稿：

システム技術分科会、教育環境分科会、科学技術計算分科会、合同分科会から選定された発表原稿とします。ただし、選定いただいた原稿以外に、広報委員会から掲載を依頼する場合があります。

◆掲載原稿の選定：

各分科会の企画委員に、原則として以下の編集方針のもとでの選定をお願いいたしました。掲載原稿の選定基準は以下のとおりです。

- 1) 以下に該当するものとする。
 - ・ 当該分科会のメインテーマにマッチした内容である
 - ・ 社会/業界の状況に対して、タイムリーな内容である
 - ・ SS研内あるいは一般に、広く通用する技術等が含まれている
 - ・ オープン扱い（Webサイトで認証のないページに掲載）の原稿である
- 2) アンケート結果はあくまで参考資料とする。但し、その重みづけは各分科会に一任する。
- 3) 合同分科会の分科会代表報告は、合同分科会側と、当該分科会側の両方に選定の権利があるが、当該分科会側の選定が優先する。
- 4) 富士通の製品発表は対象外とする。
- 5) 分科会は上記とは別枠で、関連WGの発表資料からも掲載原稿を推薦することができる。推薦された原稿は、広報委員会で検討の上、掲載を決定する。

◆選定数

分科会ごとに、2011年度の活動から2件の選定を目安とします。ただし、合同分科会については「選定なし」を可とします。

掲載原稿の選定では、各分科会の企画委員の皆様には多大なご協力をいただき、本選集が無事発行できましたことは、編集委員の一人として、感謝の念に堪えません。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

本冊子が、会員の皆様の日々の活動に役立てば、望外の喜びとするところです。

2012年5月

2011 年度広報委員会

担当幹事	水本 好彦 (国立天文台)
委員長	上島 豊 (個人会員)
委員	三科 淳 (高エネルギー加速器研究機構加速器研究施設)
	真鍋 篤 (高エネルギー加速器研究機構計算科学センター)
	鈴木 富男 (理化学研究所)
	相澤 広 (富士通株式会社)



Scientific Systems

サイエンティフィック・システム研究会

ニュースレター選集 vol.12 2012年5月11日発行

発行 サイエンティフィック・システム研究会

編集 2011年度広報委員会

お問合せ サイエンティフィック・システム研究会 事務局

〒105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2

Tel: 03-6252-2582 E-mail: office@ssken.gr.jp

Website: <http://www.ssken.gr.jp/>

Facebook: <http://www.facebook.com/ssken>

※ 著作権は各原稿の著者または所属機関に帰属します。無断転載を禁じます。